

くまびょう

129号

NEWS

くまびょう
NEWS2008年
3月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター

〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

平成19年度第2回(通算第24回) 開放型病院連絡会開催される

平成19年度第2回、通算第24回開放型病院連絡会は2008年2月19日(火)19時よりくまもと県民交流館パレオホールにて開催されました。年度第2回目の連絡会は例年、院内の地域医療研修センターホールで行っていましたが、昨年2月の第22回連絡会では会場が満杯になり登録医の先生方にご迷惑をおかけした事や、新病院建築工事で臨時駐車場も設置できないこともあり院外での開催になりました。まず院長が、歴代の開放型病院連絡協議会委員並びに登録医の先生方へのお礼を述べ、おもに病院建て替え工事の進捗状況を紹介しました。次いで、開放型病院運営協議会委員長の熊本市医師会長福田稔先生より挨拶を頂きました。福田先生より当院の開放型病院の取り組みを評価して頂き、これからも医療連携が機能するには登録医と国立病院機構熊本医療センター、双方の協力が必要であるとの言葉を頂きました。

全体会議は、熊本市医師会理事の清田武俊先生と池井が司会を担当し、症例呈示では耳鼻咽喉科の緒方医長が「咽頭垂全摘術」として、咽頭癌に対して発声機能を残す手術術式を呈示し、患者のQOLが保たれることを説明しました。また循環器科の藤本医長が「血管再生療法の現状」で、下肢動脈閉塞の患者がこの治療により下肢切断術を受けることなく治癒することを述べました。総合討論では、登録医の先生より「共同指導に患者サイドから来てほしいと言った雰囲気を作って欲しい」「患者様と呼ばずに患者さんのほうが良いのではないか」「症例呈示されたような治療法はホー

ムページに掲載して欲しい」など、有意義なご提案を頂きました。今後、検討させて頂きます。最後にメインテーマの特別講演として厚生労働省医政局指導課医療計画推進指導官 伊東芳郎先生に「これからの医療提供体制について考える」の御講演を頂きました。先生は医療提供体制の歴史から、現在の医療提供体制の見直し、これからの医療体制について、詳しく誠実に講演して頂きました。講演終了後フロアの登録医の先生方との活発な討議が行われました。会場一杯の聴衆で盛会な講演会になりました。

今回も多数の登録医の先生方にご出席頂き有難う御座いました。来年度も、まだ新築工事中ですので院外で開催する予定です。新病院完成後は再び院内の広い地域医療研修センターで開催致します。来年度も多数ご参加下さいますようお願い致します。

(副院長 池井 聰)



伊東芳郎先生のご講演風景

国立病院機構熊本医療センターは

- 1、最新の知識と医療技術をもって良質で安全な医療を提供します
- 2、人権を尊重し、愛と礼節のある医療の実践を目指します
- 3、教育・研修・研究を推進し、医学・医療の発展に寄与します
- 4、国際医療協力を通して世界人類の健康に貢献します
- 5、健全経営に努め、医療環境の向上を図ります





これからの大病・小病連携 ～後方支援病院になれる様にスキルアップ～

医法) 社団昭成会
井病院
院長 末松 哲



当院は熊本市街から南へ2km程の八王寺にある40床全て一般病床の小病院です。義父(井昭成)が八王寺町に残したこの病院を平成11年から私が引き継ぎ、早いもので今年9年目を迎えます。

私は昭和63年久留米大学を卒業。同大学病院第1外科に入局し消化器外科を中心に筑後地区で外科医として勤務して参りました。専門分野の中で仕事を行っていた勤務医時代と違い、開業医になってからは総合医として患者さんと接する必要性が高くなり、

周辺医療機関との連携の重要性を痛感しています。

当院は市内の基幹病院から車で30分以内と立地条件は悪く無いのですが、当時は私自身が熊本での実績がない上に出不精の為、周辺の医療機関の先生達と連携を築くのに時間が掛かりました。そんな中、国立病院機構熊本医療センター(当時は国立熊本病院)は当初から当院の外来や入院中の患者さんの相談や急変に対して何時も親身に適切に対応して頂けるので誠に有り難く心強い存在です。

これからも貴院の多くの先生達とお会いし、アドバイスを頂戴し、人脈を築き、地域により良い医療をフィードバック出来る様に努力したいと思います。

最後に、この度は『くまびょうNEWS』に掲載する機会を与えて頂き、誠に有難うございました。寄稿のお話を頂きました池井聰副院長先生が属される外科には大学からの同級生である大堂雅晴先生が平成17年末から勤務しています。これからも更により良い病病連携が活発に行える様に当院も職員一同努力を惜しまぬ気持ちです。また、整形外科の野村一俊先生には義弟(井賢治)がご指導頂き大変お世話になりました。この場を借り御礼申し上げます。今後も国立病院機構熊本医療センターのますますの発展を祈念致しますとともに、当院は中核医療機関の後方支援病院となれる様にスキルアップの努力をして参る所存です。

FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。当院は紹介状をお持ちの患者様につきまして優先診療を行っていますが、紹介状をお持ちの患者様が重なると待ち時間が長くなることがあります。患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約が可能となりますのでご活用下さい。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。日勤帯であれば

10分以内に返信致します。紹介患者様は予約の時間に来院して頂ければ、長く待つことなく診察を受けることが出来ます。

紹介状のみの患者様につきましても今後も優先診療を行います。FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用して頂ければ、患者様の待ちが時間短縮します。

よろしくお願い申し上げます。

(外来委員長 清川 哲志)

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで



蔵本 和咲

口腔外科、小児歯科
障害者歯科、一般歯科

日本口腔衛生学会認定医
インフェクションコントロールドクター



佐藤みやこ

口腔外科、障害者歯科
一般歯科

診療内容と特色

口腔外科領域疾患の治療を中心に救急医療、高齢者歯科医療、有病者歯科医療、一般歯科医療を行っており、さらに2003年度からは全身麻酔が必要な重度障害者の歯科治療を始めました。また、病院歯科の役目として、他診療科入院患者の歯科治療や口腔ケア指導を行っております。人間ドックでの歯科領域の検査、顎骨のX線撮影による顎骨腫瘍・顎嚢胞の検査を行っております。

治療の中心となる口腔外科領域の症例は、歯科医院からの智歯の抜歯依頼が最も多く、その他に口腔や顎骨に発生する腫瘍、嚢胞性疾患、炎症性疾患、それに救急医療として顔面外傷、顎骨骨折などがあり、その多くは入院治療となります。

近年増加してきています高齢者歯科医療や心疾患、高血圧症、糖尿病などの何らかの基礎疾患を持っている患者の有病者歯科医療は、総合病院の特性を十分に活かして内科を初めとする各科と相談しながら細心の注意を払って行っております。

病院歯科の役目としては、入院患者様の歯の治療や義歯の作製を行い、食事摂取を良好にして患者様の体力回復を念頭において努力しております。また、入院患者様の口腔不潔による誤嚥性肺炎などの続発症を予防するために口腔衛生指導を積極的に行っております。



児玉 圀昭

口腔外科、一般歯科

口腔外科専門医
日本口腔外科学会認定医
日本口腔外科学会指導医



片岡奈々美

口腔外科、障害者歯科
一般歯科

日本口腔衛生学会認定医

とくに、血液疾患における化学療法・造血幹細胞移植患者の口腔ケアには力を入れております。

診療実績

国立病院機構熊本医療センターは救命救急センター、開放型病院、地域医療支援病院と多くの指定を受けていますが、それに伴って当科の紹介患者が年々増加し、年間500例を超すという著しい増加を示しています。現在、紹介率は月平均37%と高率を示すようになり、紹介患者の増加に伴って、入院を必要とする口腔外科患者も増加し、年間100例前後で推移しています。

入院には口腔腫瘍、顎骨嚢胞、顎骨骨膜炎、骨髄炎、蜂窩織炎、顎骨骨折、歯槽骨骨折、歯牙脱臼を含めた口腔・顔面外傷、口内炎、埋伏歯抜歯、口腔出血、重度知的障害者、アルツハイマー型老年期認知症、総合失調症、脳性麻痺などがあります。

研究実績

当科での研究課題は、口腔腫瘍、異形成疾患の研究、口腔衛生関心度の研究、白血病・造血幹細胞移植患者の口腔ケアの研究等で、口腔外科学会・口腔衛生学会に発表しております。

ご案内

外来診療は月曜から金曜の8:30~17:00、新患受付は8:15~11:00(急患は除く)、手術は火曜・木曜の午後に当て、他の曜日の午後は外来小手術と他診療科入院患者の治療を行っております。

また、歯科医師研修として、熊本県歯科医師会・熊本市歯科医師会との共催による有病者歯科医療講演会(6月・10月・2月の第三木曜日)、臨床口腔外科講演会(7月または8月の第五水曜日)を開催しています。御参加を歓迎します。

最近のトピックス

小児食物アレルギーにおける経口食物負荷試験の重要性



小児科

緒方 美佳

1) 小児食物アレルギーについて

本邦の食物アレルギー (FA) 児数は増加傾向です。乳児の5~10%がFAとされ、その多くはアトピー性皮膚炎 (AD) にて発症します¹⁾。皮膚の治療が診断にも治療にも不可欠で、即時型発症例に比し原因抗原の診断が困難です。母乳を介して微量の食物抗原を持続的に摂取することが原因と考えられ、このような児が離乳食にて大量に原因抗原を摂取すると、アナフィラキシーショックを含む重篤な即時型症状を呈することがあります。また診断の遅れにて重症化し成長発達の遅れを来す例もありました。

2) 食物アレルギーの治療

現状では「必要最低限の原因食物の除去」とされ¹⁾、授乳期には母親にも除去食を要する例が殆どです。安易で過剰な除去は乳児の成長発達に大きく影響し、母親に精神的肉体的負担を与える為禁忌です。除去食を行う際には栄養士と小児科医による評価を要します。

3) 食物アレルギーの診断

FAの診断は負荷試験「食べて悪化するか？」に基づきます¹⁾。血中抗原特異的IgE抗体や皮膚テストは参考になりますが²⁾³⁾感作状態を示すにすぎません⁴⁾。

4) 食物負荷試験の有用性

負荷試験には①正確な診断 (除去食決定前) ②寛解の確認 (除去食施行後) という重要な役割があります。乳児FAの90%は小学校入学までに寛解し、可及的早期の解除が必要です。また寛解を獲得しなかった場合も摂取による出現症状の推測ができます。最近ではエピネフリン自己注射も処方可能となり、アナフィラキシー (An) への対策を講じることが可能となりました。

5) 食物負荷試験の実際

負荷試験可能な施設は全国的に不足しています。当院では栄養科の協力の下、日帰り入院での検査を開始致しました。週2回、1回2名ずつ施行しております。昨年はFA患児12名に計22回の入院負荷試験を行い、20例の除去食解除を確認致しました。僅か4mlの摂取でAnを呈した4歳児は、エピネフリン自己注射を導入致しました。誤食時のリスク把握と対策ができたことは大きな収穫でした。

6) おわりに

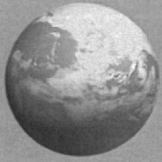
FA患児のケアには皮膚科・小児科、専門医・かかりつけ医、栄養士、学校 (園)、周囲の児や保護者など多くの方々の理解が必要です。私自身も沢山の方々に助言や協力を頂いておりますが、児を囲む私どもが連携をとることは、児のQOLや保護者の不安を改善することにつながるのではと考えます。負荷試験を行うことが自己判断による過剰な除去や付随する栄養不良を予防し、児の健全な発達に寄与できれば本当に嬉しい限りです。ご質問等ございましたらお気軽にご連絡頂けますと幸いに存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

表1 食物アレルギーの臨床型分類 (文献1より)

臨床型	発症年齢	頻度の高い食品	耐性の獲得 (寛解)	アナフィラキシーショックの可能性	食物アレルギーの機序	
新生児消化器症状	新生児期	牛乳 (育児用粉乳)	(+)	(-)	IgE 非依存型	
食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎*	乳児期	鶏卵、牛乳、小麦、大豆など	多くは(+)	(-)~(+)	主にIgE 依存型	
即時型症状 (じんましん、アナフィラキシーなど)	乳児期~成人期	乳児~幼児: 鶏卵、牛乳、小麦、そば、魚類など 学童~成人: 甲殻類、魚類、小麦、果物類、そば、ピーナッツなど	鶏卵、牛乳、小麦、大豆など (+)	(++)	IgE 依存型	
特殊型	学童期~成人期	学童期~成人期	小麦、エビ、イカなど	(-)~(±)	(+++)	IgE 依存型
型	幼児期~成人期	幼児期~成人期	果物・野菜など	(-)~(±)	(±)~(+)	IgE 依存型

文献

- 1) 海老澤元宏ほか 厚生労働科学研究班による「食物アレルギーの診療の手引き2005」2005年10月
- 2) Komata T. J Allergy Clin Immunol. 2007; 119 (5): 1272-4.
- 3) Sampson HA. J allergy Clin Immunol 2001; 107: 891-896
- 4) Sampson HA. J allergy Clin Immunol 1999; 103 (6): 981-9
- 5) Sampson HA. Pediatrics. 2003; 111: 1601-8.



国際医療協力

平成19年度『薬剤耐性病原体の実験室診断』コース

国立病院機構熊本医療センターは、国内唯一の国際医療協力基幹施設として、JICA（国際協力機構）、ACIH（国際保健医療交流センター）及び熊本県と連携し、積極的に国際医療協力を推進しています。

2007年11月25日より2008年3月21日まで「平成19年度薬剤耐性病原体の実験室診断コース」にバングラディッシュをはじめ7ヶ国8名が、当院の研修棟に宿泊しながら研修を行っています。

本コースは、開発途上国における感染症診断に関する中心的な役割を果たしているラボラトリーの上位または中堅技術者に、耐性菌発現の環境、メカニズムからサーベイランスまで幅広く最新の知識を提供し、彼らはその知識をもとに日本の第一線の病院現場において検査室での具体的な検査方法、精度管理及び感染対策を実施できるようにする事を目的としています。

（文責：庶務班長 牧野 功）

【平成19年度『薬剤耐性病原体の実験室診断』コース研修員名簿】

2007.11.25～2008.3.21

写 真	氏 名(国名)	職業・所属等	写 真	氏 名(国名)	職業・所属等
	Dr. Tarek Mahbub Khan カーン (バングラディッシュ)	サー・サリムラ医科 大学 微生物科 講師		Ms. Janet Oshale Thubuka ジャネット (ボツワナ)	ニャンガバウエ病院 上級医療検査技師
	Mr. Ephraim Ookeditse Tawanana エフレイム (ボツワナ)	保健省 医療部 国立保健検査センター 医療検査研究員		Mr. Traore Drissa トラオレ (ブルキナファソ)	デドゴ地域病院 検査技師
	Ms. Huang Ying ファン (中華人民共和国)	安徽医科大学第一付 属病院 検査部 微生物検査科 主任		Mr. Teweia Toatu テウエイア (キリバス)	保健医療省 検査サービス部 検査技師補佐
	Mr. Salah N.A. Qawariq サラークワリク (パレスチナ)	ラマラ政府病院 医療技師		Mr. Nicolas Cordeiro Garcia ニコラス (ウルグアイ)	国立大学 医学部 微生物学科 講師

平成19年度九州ブロック院内感染対策研修会開催報告

くまびょうNEWS127号でご案内したとおり、去る1月23日（水）より25日（金）の3日間にわたり、国立病院機構九州ブロック主催による、平成19年度の院内感染対策研修会が、院内感染対策に関する最新の専門的知識を習得し、院内感染対策の充実を図ることを目的に、当院地域医療研修センターにて開催されました。国立病院機構九州ブロック各施設から推薦された院内感染対策を担う医師8名、看護師43名の他、九州以外の国立病院機構病院や国立病院機構外からの参加が多数ありました。

本研修では、院内感染で著名な外部講師15名に講演をお願いし、当院からも西野隆副薬剤科長が「国立病院機構ネットワークによる薬剤耐性菌サーベイランス」について、加口敦士医長が「疥癬の院内感染対策」について、杉和洋医長が「内視鏡の管理と消毒」について、日高道弘医長が「血管カテーテル由来血流感染対策」について、吉田真由美ICNが「国立病院機構熊本医療センターにおける院内感染対策の現状」についてお話ししました。



朝野和典教授による講義

今回のトピックスとしては、MRSAと多剤耐性緑膿菌、インフルエンザ対策、ノロウイルス対策などがありました。院内感染の減少は患者様に最も望ましいことであり、医療の質の面からも特に重要と思われれます。

御協力を頂きました多くの方々に御礼申し上げます。
(副院長 河野 文夫)

研修医レポート

心臓血管センター

循環器科

まえ ゆきこ
万 江 由希子



2007年4月より、国立病院機構熊本医療センターの初期臨床研修でお世話になっております万江由希子と申します。4月から研修医としての生活がスタートし、麻酔科、救命救急部、外科、神経内科、呼吸器内科での研修を終え、現在循環器科で研修中です。全てが初めての経験であり、最初はただ戸惑うばかりで、多く

の先生方や周囲のスタッフの方々にご迷惑をおかけしたことと思います。これまでに多くの患者様を担当させて頂き、治療方針から治療効果の判定、退院に向かう計画まで、自分で考えて行動できるよう厳しくご指導頂きました。またルート確保や縫合などの基本的な手技から腰椎穿刺などの特殊な手技まで、ご指導のもと多くの経験をさせて頂き、充実した研修生活を過ごすことができています。そんな中、技術だけでなく、患者様やご家族、医療スタッフとのコミュニケーションや礼儀の大切さを日々学んでおります。

残りわずかです1年目の研修を終えようとしています。これまでを振り返り、多くの先生方、同期の仲間、周囲のスタッフの方々に支えられ、本当に感謝しております。日々努力することを忘れずに、今後の研修に臨みたいと思います。これからもご指導、ご鞭撻の程を宜しくお願い致します。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

研修のご案内

第89回 救急症例検討会 (無料)

日時▶2008年3月12日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

症例検討「小児救急」

国立病院機構熊本医療センター小児科部長 高木 一孝

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

第220回 初期治療講座 (会員制)

日時▶2008年3月15日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

「早期胃癌の診断と治療」

座長 熊本市医師会 鶴田 克明

1. 内視鏡的治療

国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科 押方 慎弥

2. 腹腔鏡下手術

国立病院機構熊本医療センター外科医長 栗崎 貴

3. 器材供覧

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

第110回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶2008年3月17日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科 田尻 守拡

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例呈示「脂肪肝を呈した汎下垂体機能低下症の1例」

国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科 榊田 光倫

4. ミニレクチャー「成人T細胞白血病、最新の診断と治療」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科 武本 重毅

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

第79回 三木会 (無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶2008年3月27日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 31歳発症の糖尿病に膵悪性腫瘍が発見された症例

公立玉名中央病院循環器科 福田 一起

国立病院機構宮崎病院内科 小堀 祥三、寺本 仁郎

2. 著明な肥満を合併した糖尿病性ケトアシドーシスの1例

国立病院機構熊本医療センター糖尿病センター

佐々木彰子、豊永哲至、市原ゆかり、児玉章子、高橋 毅、東輝一郎

3. 原発性アルドステロン症、原発性副甲状腺機能亢進症、甲状腺乳頭癌を合併した糖尿病の1例

国立病院機構熊本医療センター糖尿病センター

市原ゆかり、児玉章子、高橋 毅、豊永哲至、東輝一郎

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎 TEL 096-353-6501 (代表) 内線705

2008年 研修日程表 3月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

3月	研修ホール	会議室	その他
3日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
4日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
5日(水)			17:00 消化器疾患カンファレンス C
6日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
7日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
8日(土)	14:00~16:00 第204回 滅菌消毒法講座《会員制》 「インジケーター 滅菌バッグについて」	ホギkk 研究開発部 橋本章	
10日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
11日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
12日(水)	18:30~20:00 第89回 救急症例検討会 「小児救急」		17:00 消化器疾患カンファレンス C
13日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
14日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
15日(土)	15:00~18:00 第220回 初期治療講座《会員制》 座長 熊本市医師会 鶴田 克明 「早期胃癌の診断と治療」 1. 内視鏡的治療 国立病院機構熊本医療センター消化器科 押方 慎弥 2. 腹腔鏡下手術 国立病院機構熊本医療センター外科医長 栗崎 貴 3. 器材供覧	[日本医師会生涯教育講座5単位認定]	
17日(月)	19:00~20:30 第110回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
18日(火)	18:00~19:30 第41回 くすりの勉強会(公開)	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
19日(水)	13:00~17:00 糖尿病教室		12~13 糖尿病教室 研食 17:00 消化器疾患カンファレンス C
21日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
24日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
25日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
26日(水)			17:00 消化器疾患カンファレンス C
27日(木)	19:00~20:45 第79回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
28日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
31日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 研食 研修棟食堂
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代) 内線263 096-353-3515(直通)